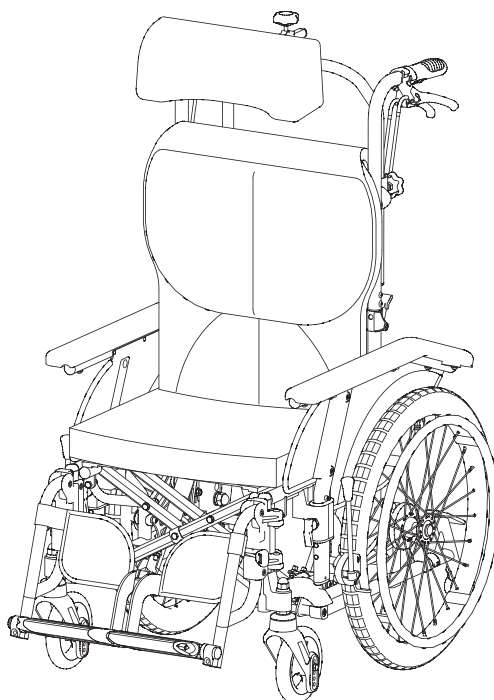


取扱説明書

車いす KK-T61シリーズ

保証書付

7F08686900A3



まえがき

このたびは、**車いすKK-T61シリーズ(以下、車いす)**をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この「取扱説明書」には、**車いす**を安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しています。

- 車いす**をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。(バックサポート後のポケットに入れておいてください)
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- 動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。特別なものを除き、この「取扱説明書」では表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接パラマウントベッドまでお問い合わせください。

販売元：パラマウントベッド株式会社
製造元：株式会社松永製作所

目次

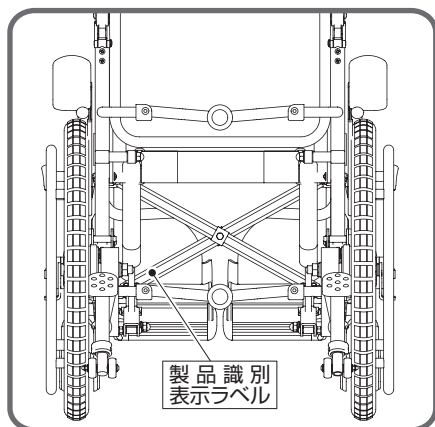
はじめに	1
安全にお使いになるためのご注意	2
各部の名称	4
寸法・機能一覧	5
機能説明	5
広げ方・折りたたみ方	6
広げ方	6
折りたたみ方	7
安全にお使いになるための使用方法	8
ブレーキの使用方法	8
バックサポートリクライニング	8
フットサポートの調整	9
フットサポート(前後調整&角度調整&幅調整)	10
フット・レッグサポートスイングアウト	11
アームサポートの高さ調整	11
ヘッドサポートの高さ調整	12
張り調整シート	13
転倒防止	14
回転式スナップピンの取り外し方・取り付け方	14
使用方法	14
ご使用の前に	14
乗り方・降り方	15
動かし方	16
介助の仕方	17
その他の注意事項	19
車いすのオプション	20
もしこんなトラブルが発生したときは	21
車いすのお手入れの方法	22
ガススプリングのご使用方法について	23
アフターサービスについて	24
保証書	

はじめに

使用目的 この車いすは、ご家庭、医療施設および高齢者施設で使用されることを目的に作られています。ご利用になる方の体格や身体の状態にあった車いすをお選びいただき、使用してください。

健康をそこなう恐れがあります。そのような場合には、購入されたお店にご相談ください。また、保証書が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください。

購入された製品の型式をご確認ください。型式は、下記位置に表示してあります。

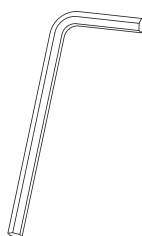


以下の物が同梱されているか、確認してください。

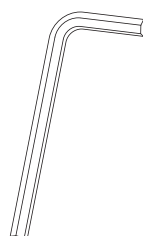
付属品



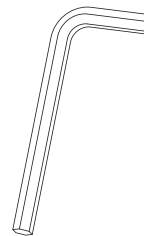
取扱説明書



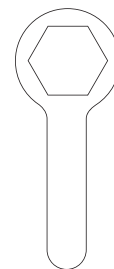
六角レンチ
(対辺3mm)



六角レンチ
(対辺4mm)



六角レンチ
(対辺5mm)



サービススパナ
(13mm)


ご使用前に


出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.14参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、パラマウントベッド(P.23参照)までご連絡ください。

安全にお使いになるためのご注意

 **警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

 **注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



してはいけない

- 故障、異常のある時は使用しないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。
また、タイヤのパンクの原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けしないでください。
ロックが解除され、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



必ずしていただく

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポートの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニング & ティルトレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。
車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングは左右同じ角度で倒してください。
破損の危険があります。
- 道路の通行は必ず右側を通行してください。(歩道のある場合は歩道を通行してください。)
交通法規を守って走行してください。(車いすは歩行者扱いです。)
- 坂道の登り下りの時は、介助の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートが固定されているか確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故等の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポート調整後は必ずボルトをしっかり締めてください。
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。
アームサポートの高さが急に変わり、手などをはさんだり、転倒・転落事故等の原因となります。

注意

- 急ブレーキ、急発進、急な旋回をかけないでください。
車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。
- ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。また、強度が低下し、車いす破損の原因となります。
- リクライニング車いすの縮み止め・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートにすき間がある状態で使用するとフットサポートが外れ、ケガの原因となります。
- ヘッドサポートを持って持ち上げたり、無理な力を加えないでください。またヘッドサポートをグリップとして使用しないでください。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- 走行中は急停車しないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポートパイプやグリップのみで、キャストを上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。
- 車いすで荷物を運んだりしないでください。
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま放置しないでください。
バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングした状態で、バックサポートの上に乗らないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。また、バックサポートパイプが曲がったり故障の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 介助者の方は制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 制動用ブレーキレバーとリクライニング&ティルトレバーを間違えないように注意してください。
不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか確認してから座ってください。
パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等及び故障の原因となります。
- 保管する場所には十分注意してください。
- 車いすの乗り降りは、必ず駐車用ブレーキをかけ、路面の平坦な場所で行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。
- マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。
フレームの破損の原因となります。
- 高さ調整ノブボルトをゆるめる際にはヘッドサポートが落ちないように、支えてください。
フレームの破損の原因となります。
- 張り調整ベルトに糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 転倒防止の回転式スナップピンは、必ずしっかりと締めてください。
転倒防止が外れ、役目を果たさない可能性があります。
- 必ず固定されている場所を持ってください。
操作レバー、ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、ブレーキなど持たないでください。
- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。
- マジックベルト装着機種は、必ずマジックベルトを締めてください。
衝撃などで転倒・転落事故等の原因となります。
- マジックベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転倒・転落事故等の原因となります。

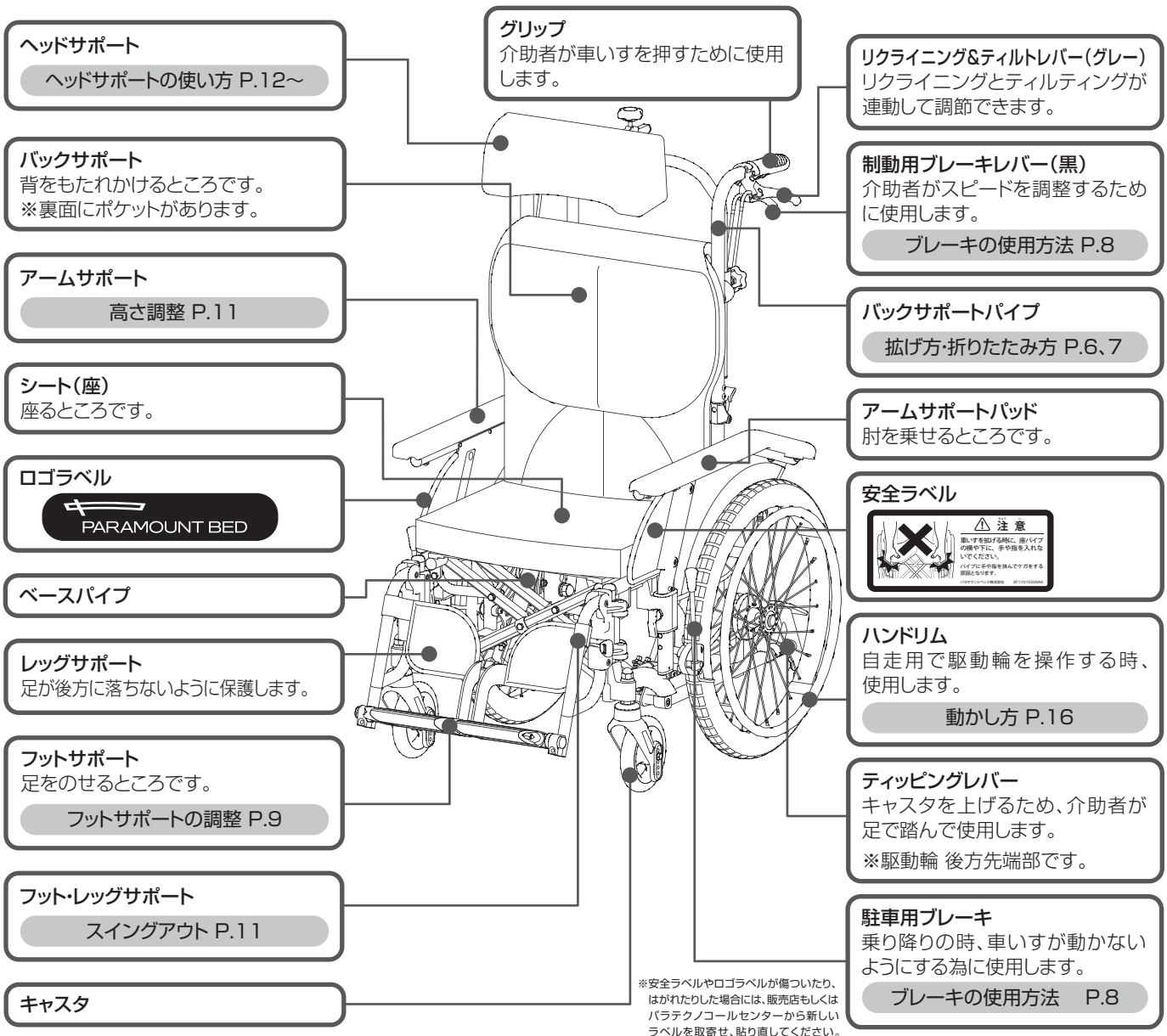
(強制)



必ずして
いただく

- 縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。(P.6 参照)
強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。
- ヘッドサポート調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください。
マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。
- 坂道を下るとき介助者の方はくんだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故等の原因となります。
- 移動中、使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- フットサポートに、使用者の足が乗っているか確認して走行してください。
- 車いすを折りたたむ際には、バックサポートの中に物が入っていない事を確認してください。
ポケットの中の物を破損したり、車いすの故障の原因となります。

各部の名称



寸法・機能一覧

型 式	キャスト (インチ)	駆動輪 (インチ)	シート幅 [mm]	前座高 [mm]	後座高 [mm]	全長 [mm]	全高※ [mm]	全幅 [mm]	折りたたみ幅 [mm]	重量 (kg)
KK-T610LB/T611LB	5	18	400	390	390	915	1025~1200	570	350	23.5/24.6

※背折たたみの状態の全高は約400mm低くなります。 ※最大使用者体重は75kgです。

型 式	タイプ	バック サポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ	
			機 能	機 能	駐車用	制動用
KK-T610LB/T611LB	自走ティルト リクライニング	折りたたみ	高さ調整/着脱	スイングアウト	タックル	ドラム

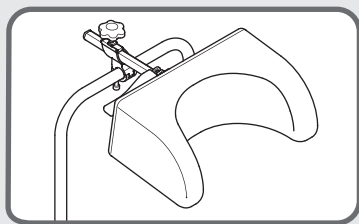
リクライニングとティルティングが連動	
ティルト角度	リクライニング角度
0°~25°	90°~115°

ティルト、リクライニング最大時寸法	
全高※	全長
840~955	1205~1230

※リクライニング角度とは、バックサポートとシートのなす角度です。
※バックサポートは、水平面に対しては90°~140°まで傾斜します。

機能説明

〈ヘッドサポート〉

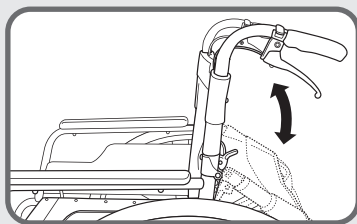


頭部を支持します。上下・前後・左右・角度を調整できます。

〈バックサポート〉

折りたたみ

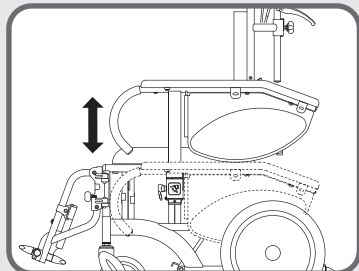
バックサポートを折りたたむと、自動車等への積み込みが容易に行えます。



〈アームサポート〉

高さ調節

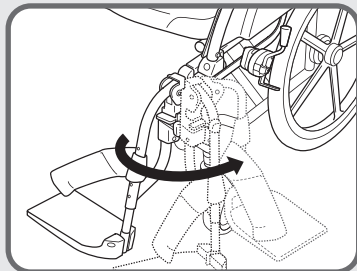
アームサポートの高さを調節して使用者の身体状況に合わせることができます。また、着脱が可能のため、ベッド等への移乗時に大変便利です。



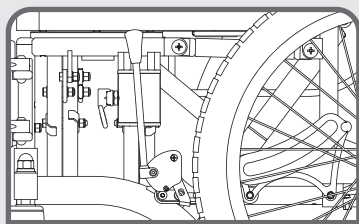
〈フット・レッグサポート〉

スイングアウト

フットレッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッドや便器等への接近が容易です。

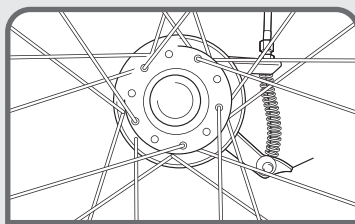


〈ブレーキ〉



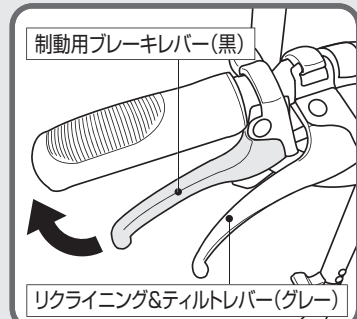
駐車用ブレーキ(ミニタックル)

乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。



制動用ブレーキ

介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



制動用ブレーキレバー(黒)

リクライニング&ティルトレバー(グレー)

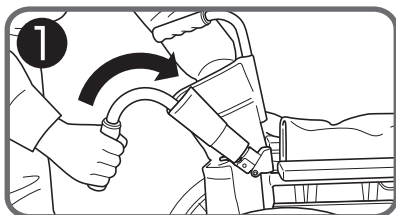
広げ方・折りたたみ方

広げ方

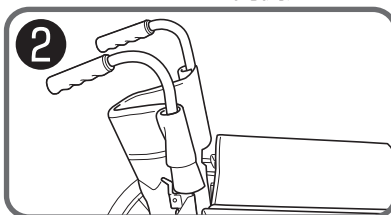
*折りたたんだバックサポートを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。

(広げた状態で行くと、バックサポートパイプにバックサポートが引っ張られ、ロック出来なくなる場合があります。また、バックサポートの破損につながるので行わないでください。)

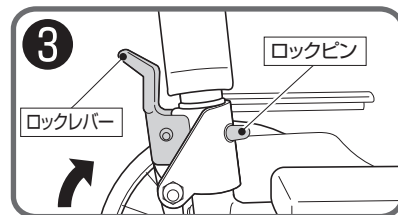
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



③ ロックレバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ている事を確認する。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、ロックピンが完全に出ていることを確認してください。(転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



警告

●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。(ロックが解除され、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

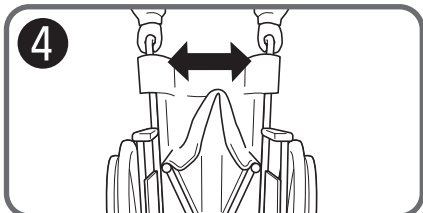


注意

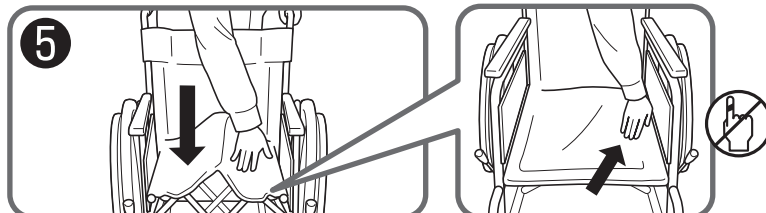
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。(車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

④ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが広がります。



注意

●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない

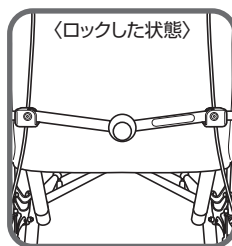
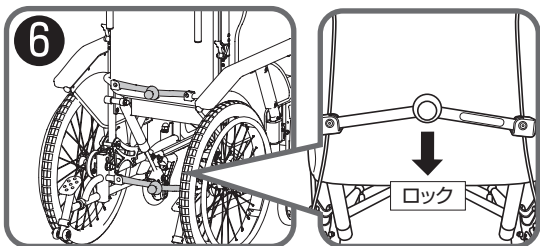


注意

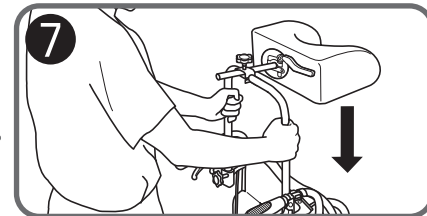
●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等及び故障の原因になります。)

していただく

⑥ 縮み止めを押し下げてロックします。(2箇所)



⑦ ヘッドサポートを差し込み、左右のノブネジで固定します。



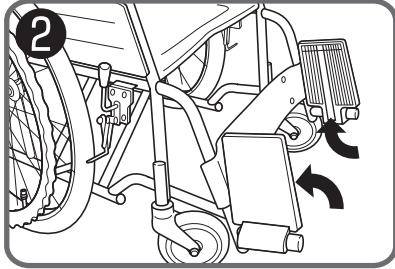
注意

●縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。(強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。)

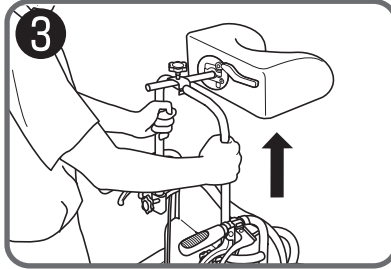
していただく

折りたたみ方

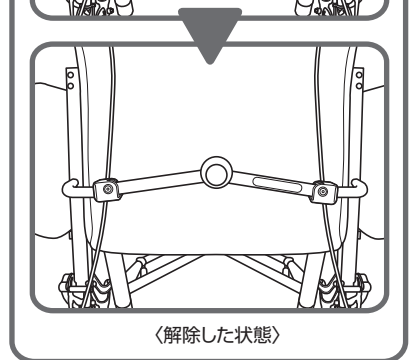
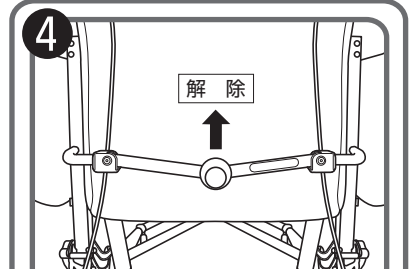
- ① 座クッションを取り外します。
- ② フットサポートを跳ね上げます。



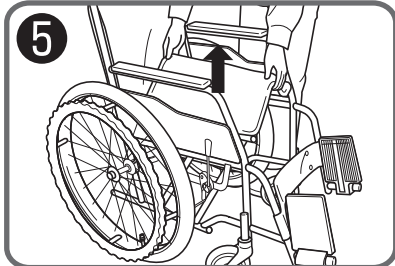
- ③ ノブネジを緩め、ヘッドサポートを取り外します。



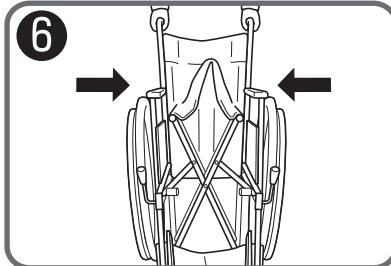
- ④ 縮み止めを解除します。(2箇所)



- ⑤ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。

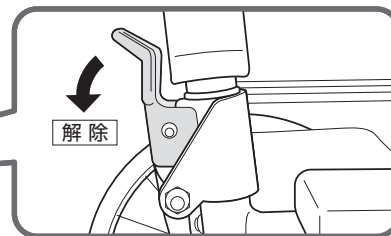
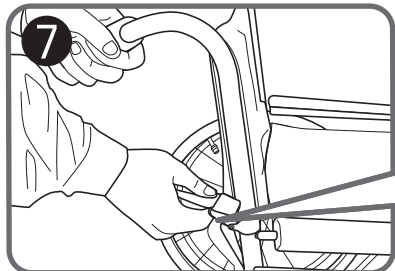


- ⑥ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。

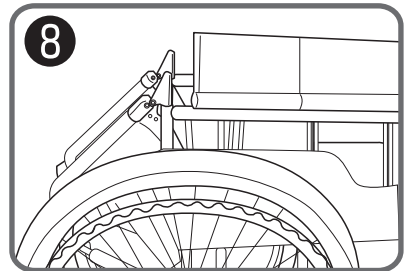


※車のトランクなどに収納する場合は、さらに高さを低く折りたたむことができます。

- ⑦ バックサポート折りたたみのロックを解除します。



- ⑧ バックサポートを両側後方に倒します。



⚠ 注意

●保管する場所には十分注意してください。(P.22参照)

していただく

⚠ 注意

●車いすを折りたたむ際には、バックサポートの中に物が入っていない事を確認してください。

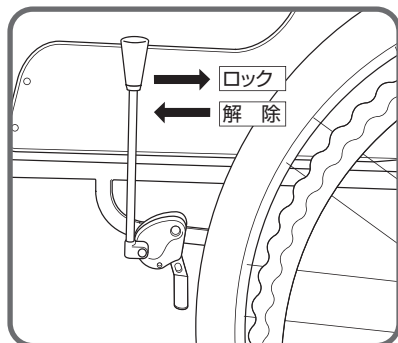
していただく

安全にお使いになるための使用方法

ブレーキの使用方法

駐車用ブレーキ

- 車いすを駐車する時に使用してください。
- 駐車用ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に押しと解除します。



警告

●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンク原因となります。)

してはいけない

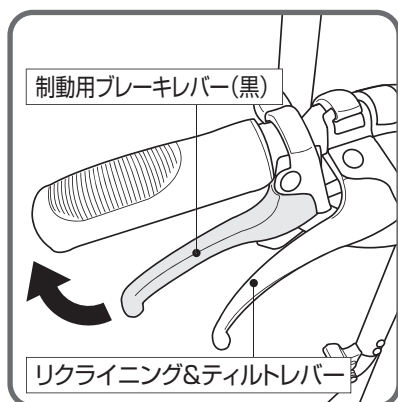
警告

●車いすに乗る・降りる前や、ベッドなどへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

制動用ブレーキ

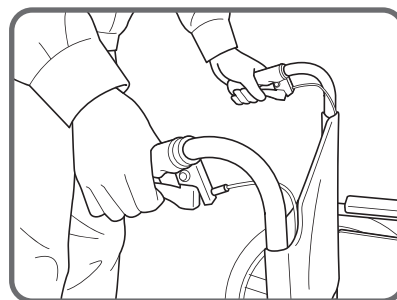
- 制動用ブレーキレバー(黒)を握るとブレーキがかかります。
- 制動用ブレーキレバー(黒)を離すと解除します。



注意

●リクライニング&ティルトレバーと間違えないように注意してください。
(不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



注意

●介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

注意

●急ブレーキ、急発進、急旋回をかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。)

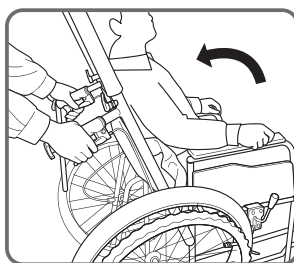
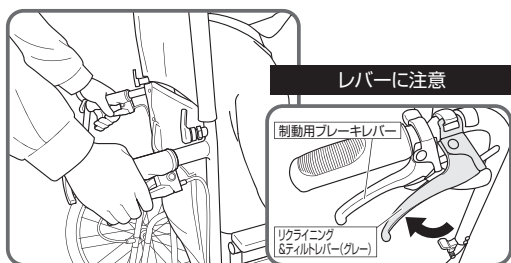
してはいけない

バックサポートリクライニング

- バックサポートの角度を、身体状況に応じて調整することができます。

リクライニング&ティルトレバー(グレー)を両側握ります。

バックサポート角度を調整し、位置が決まったら、レバーを離します。



警告 ●リクライニングは左右同じ角度で倒してください。
(破損の危険があります。)

していただく

注意 ●介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま放置しないでください。

してはいけない

注意 ●リクライニングした状態で、バックサポートの上に乗らないでください。

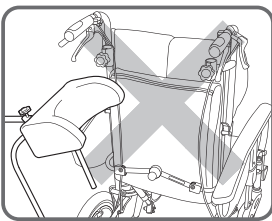
してはいけない

警告 ●バックサポートの角度調整をする時は、
駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

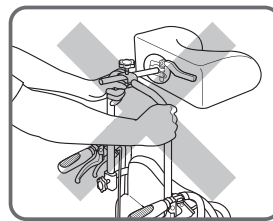
警告 ●リクライニング&ティルトレバーを左右
同時に握りながら角度調整してください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



注意 ●ヘッドサポートを外したまま、
使用しないでください。
(転倒・転落事故等の原因となり
大変危険です。また、強度が低下し、
車いす破損の原因となります。)

してはいけない



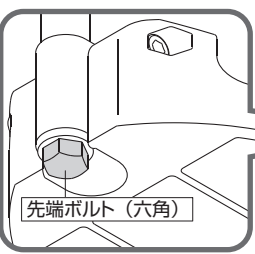
注意 ●リクライニング車いすの縮み止
め・ヘッドサポート部を持って、走
行しないでください。
(外れたりして、転倒・転落事
故等の原因となります。)

してはいけない

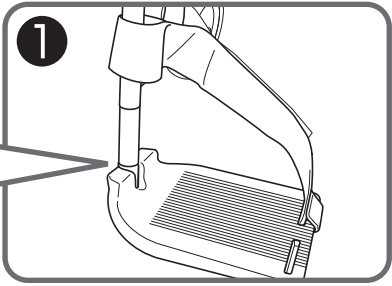
フットサポートの調整

高さの調整

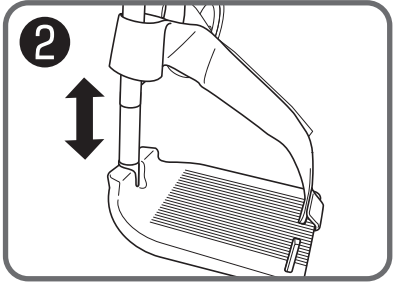
《フットサポート
裏側から見た図》



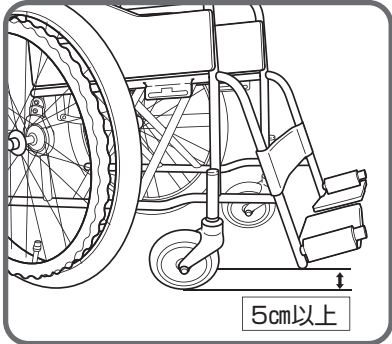
① フットサポートを少し上げ、
付属品のスパナで先端ボルトを
少し動くところまで緩める。



② 高さを調整し、
先端ボルトを締める。



※適正トルク
12.5Nm



警告 ●フットサポートが固定されているか、確認してから
使用してください。
(フットサポートが脱落し事故等の原因になります。)

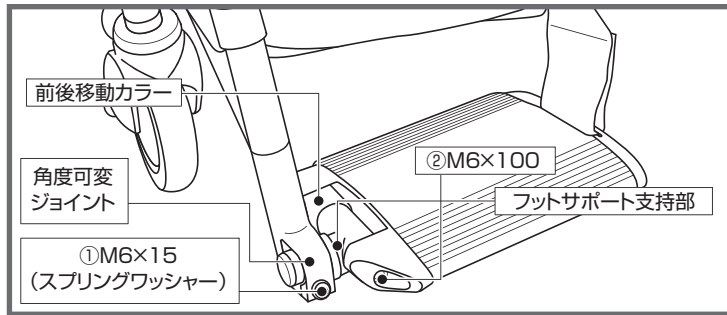
していただく

警告 ●フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に
車いすが止まり、転倒・転落事故等の原因になります。)

していただく

フットサポート(前後調整&角度調整&幅調整)

各部名称



※適正トルク

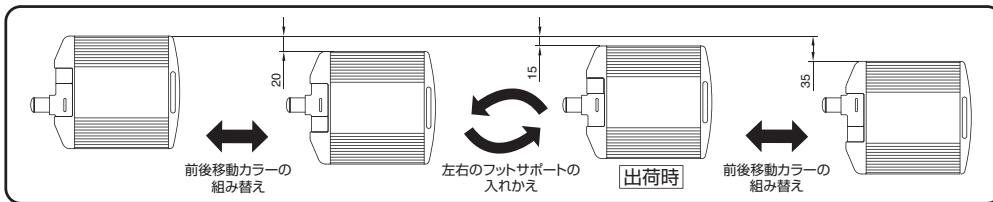
- ①M6×15… 10Nm
- ②M6×100… 7Nm

- 下記の調整方法を組み合わせて、最適な位置でご使用ください。

前後調整

その1 ②M6×100を取り外し、前後移動カラーを組み替えます。

その2 ①M6×15を緩め(取り外す必要はありません)、左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えます。

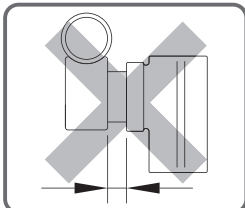


警告

- ボルトは必ずしっかり締めてください。(フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。)

していただく

角度調整



①M6×15を緩めます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてください。

フットサポートプレートをしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。位置が決まったら、①M6×15を締め、フットサポートが動かないか確認してください。

注意

- フットサポートにすき間がある状態で使用するとフットサポートが外れ、ケガの原因となります。

してはいけない

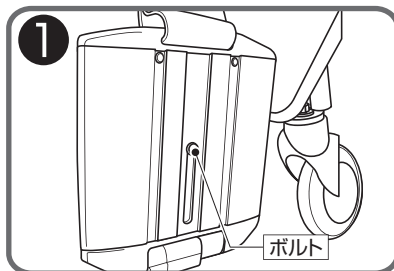
警告

- ①のボルトは必ずしっかり締めてください。(フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。)

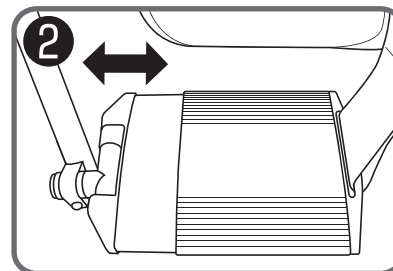
していただく

幅調整

① フットサポート裏のボルトを緩めます。



② フットサポートをスライドさせます。



③ 適切な位置でボルトをしっかり締めてください。

※適正トルク
7Nm

警告

- ボルトは必ずしっかり締めてください。(フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。)

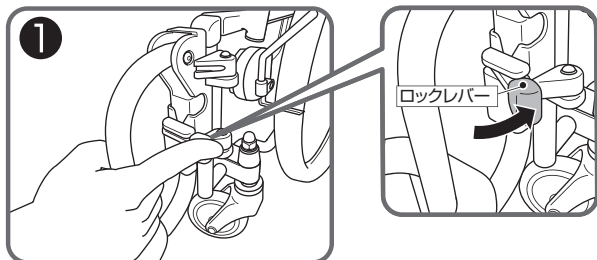
していただく

フット・レッグサポートスイングアウト

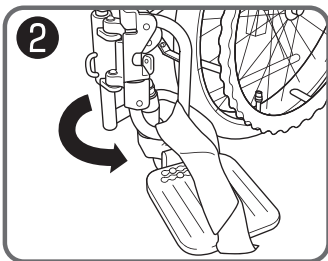
- スイングアウト(外開き)したり、取り外すことにより、足元が広くなり、トイレやベッドなどへの乗り移りがしやすくなります。また、足こぎ操作する時は、操作側のフット・レッグサポートを取り外すことにより、操作しやすくなります。

スイングアウト(外開き)の操作方法

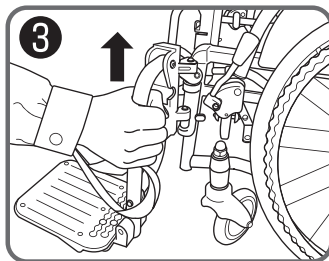
- ① ロックレバーを押し、ロックを解除します。



- ② レッグサポートを外側へ開くように回転させます。



- ③ レッグサポートを取り外すときは、外側に開いた状態から上に持ち上げてください。



警告

- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

注意

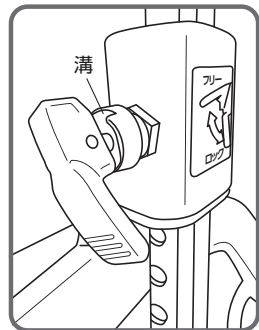
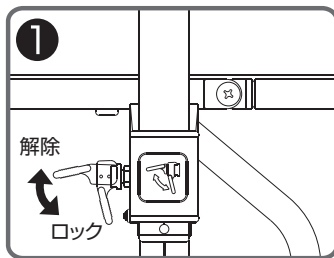
- スイングアウト着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

アームサポートの高さ調整

- 身体状況にあわせてアームサポートの高さを4段階(20mmピッチ)で調節することができます。

- ① セーフティーロックのレバーを上げ、ロックを解除してください。



このような状態ではロックが掛かっていません。ロックレバーを回転させ、溝にはめてください。

- ② アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティーロックのレバーを倒してロックしてください。

確認

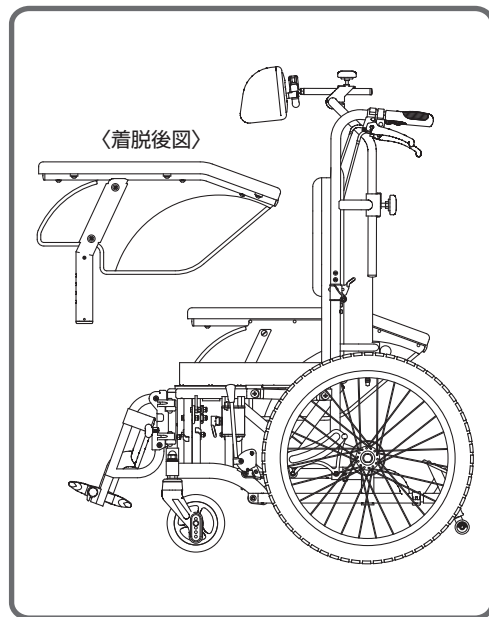
セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがグラグラしているときは、ロックされていません。アームサポートをもって少し上下に動かすと「カチッ」と音がし、ロックされます。

警告

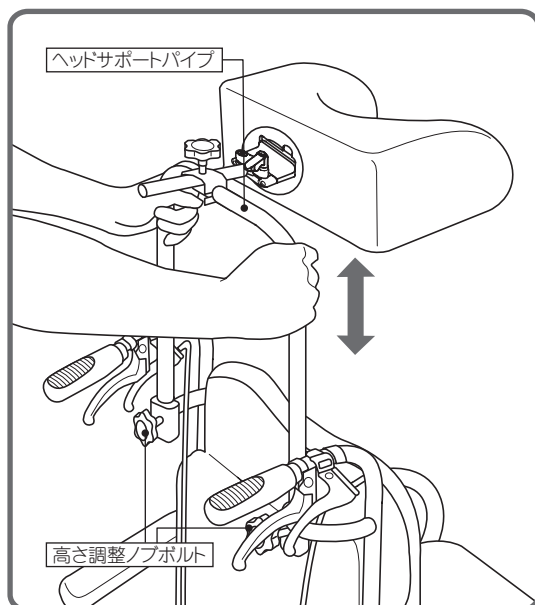
- アームサポートのロックが確実にされていることを確認してください。
(アームサポートの高さが急に変わり、手などはさんだり、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

〈乗り降りの際〉
セーフティーロックを①のように解除し、アームサポートを取り外してください。



ヘッドサポートの高さ調整



- マクラの高さを調整します。マクラは首と頭を支える形状になっています。
- ①高さ調整ノブボルトを緩めてください。
- ②ヘッドサポートのパイプを両手で持ち、使用者に合った高さに調整してください。
- ③高さが決まったところで、高さ調整ノブボルトを完全に締めてください。

確認 調整後は、高さ調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。

⚠ 注意

- マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。
- 高さ調整ノブボルトをゆるめる際にはヘッドサポートが落ちないように、支えてください。(フレームの破損の原因となります。)

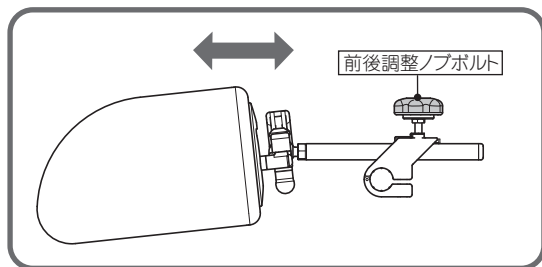
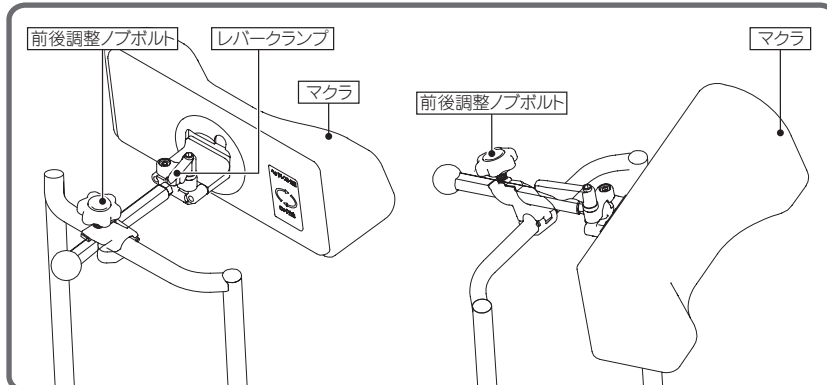
していただく

マクラの前後左右&角度調整

〈ご使用方法〉

- 使用者の身体状況に合わせて、マクラの前後・左右・角度を調整することができます。次の方法を組合わせて、最適な位置でご使用ください。

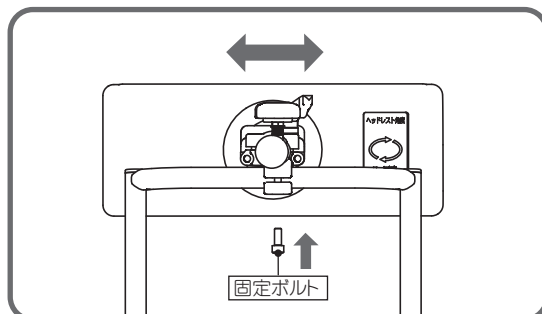
〈各部名称〉



〈前後調整〉

- 前後調整ノブボルトを緩めて、マクラの前後位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、前後調整ノブボルトをしっかり締めてください。

確認 調整後は前後調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。

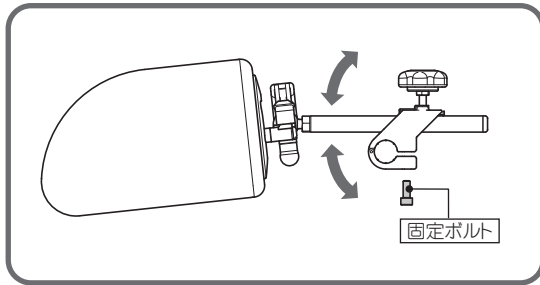


〈左右調整〉

- 固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの左右位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、固定ボルトをしっかり締めてください。

※適正トルク 10Nm

確認 調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



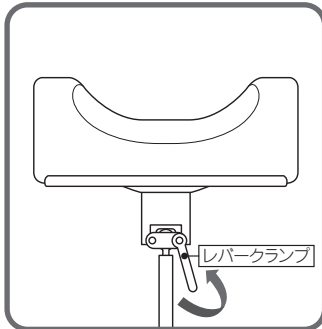
<角度調整①(固定ボルトによる調整)>

- 固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの角度を合わせてください。
- 角度が決まりましたら、固定ボルトをしっかりと締めてください。

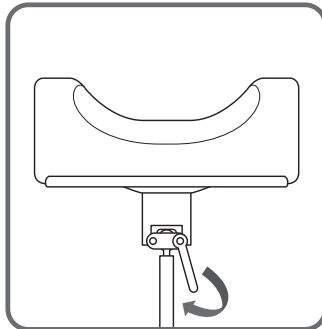
※適正トルク 10Nm

確認

調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



左回り 緩む方向



右回り 締まる方向

<角度調整②(レバー・クランプによる調整)>

- レバー・クランプを左回り(反時計回り)に回すと緩みます。マクラの角度が自由に動くので、マクラの角度を合わせてください。
- 角度が決まりましたら、レバー・クランプを右回り(時計回り)に回し、しっかりと締めてください。

確認

調整後は角度調整レバー・クランプが、完全に固定されているか確認してください。

⚠ 注意

- 調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください。

していただく

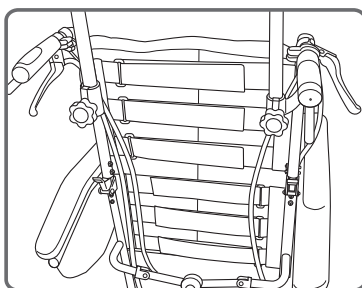
⚠ 注意

- 表記してある部分以外のボルトは緩めないでください。
(マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。)
- ヘッドサポートを持って持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。
- ヘッドサポートパイプをグリップとして使用しないでください。

してはいけない

張り調整シート

- ベルトの張り具合によって、使用者の身体状況に合わせ、シートの張りを調整します。



背シート

- ①背シート裏側(ポケット側)をめくってください。
- ②張り調整ベルトをはがし、適度な位置に調整し、再び張り調整ベルトを貼り合わせてください。
- ③背シート裏側を戻して、ブレーキワイヤーをポケットの内側に、引っかけてください。(左図参照)

座シート

座シートの張り調整ベルトは座シート裏側にあります。

- ①背シートの手順②と同様に行ってください。

⚠ 注意

- 張り調整ベルトに糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故等の原因となります。)

していただく

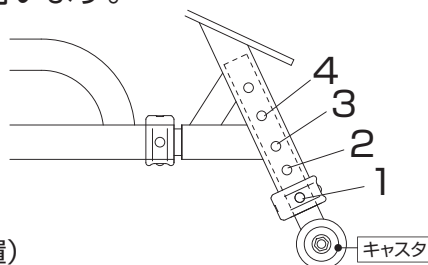
転倒防止

- バックサポートを後方へリクライニングした場合に車いすが後方へ倒れないようにします。使用しない場合は上下を逆にすることもできます。

転倒防止の高さは車いすの前座高に合わせて2段階、調整できます。調整は回転式スナップピンにて行います。

自走式	前座高	1段階目穴位置	2段階目穴位置
	390	2	4

1段階:地面より9cm(キャスト位置)
2段階:地面に接地します(キャスト位置)



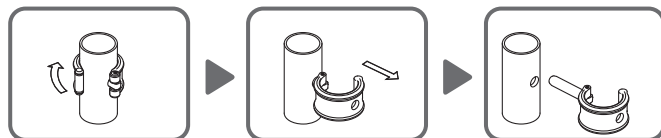
⚠ 警告

- 回転式スナップピンは必ずしっかりと締めてください。転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。回転式スナップピンが入っているか確認してください。(転倒防止が外れ、転倒する可能性があります。)

していただく

回転式スナップピンの取り外し方・取り付け方

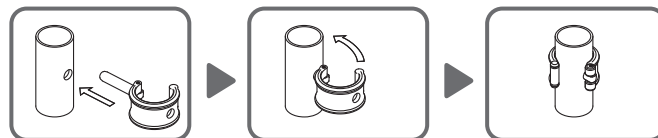
〈回転式スナップピンの取り外し方〉



指を引っかけて矢印方向に回転させます。

引き抜きます。

〈回転式スナップピンの取り付け方〉



穴にピンを差し込みます。

矢印方向に回転させます。

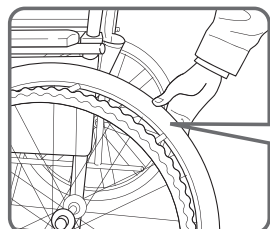
反対側の穴にピンの頭が出ていることを確認します。

使用方法

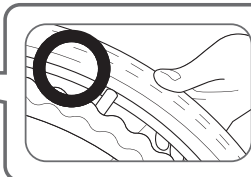
ご使用の前に

ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- タイヤの空気圧は適正か。
- 駐車用ブレーキに異常はないか。
- 駐車用ブレーキをロックした時、駆動輪が回転しないか。

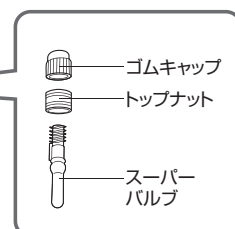
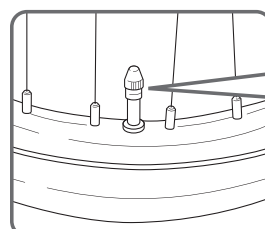


タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで補充してください。



タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



〈対応型式:KK-T610LB〉

適正空気圧

●350kPa(3.5kgf/cm²)

⚠ 警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンク原因となります。)

してはいけない

乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



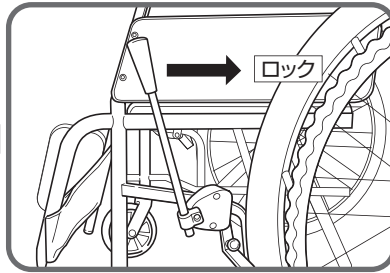
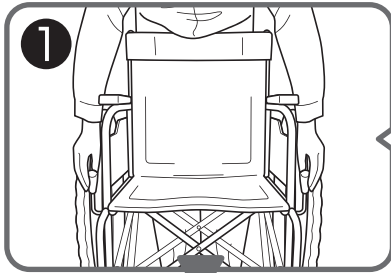
注意

- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

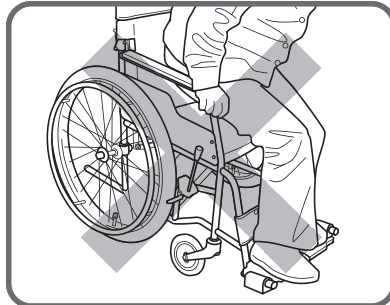
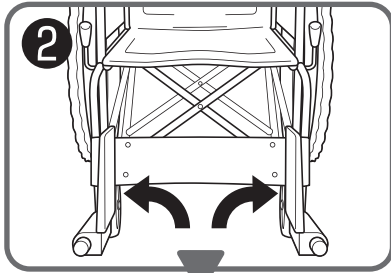
していただく

乗る時

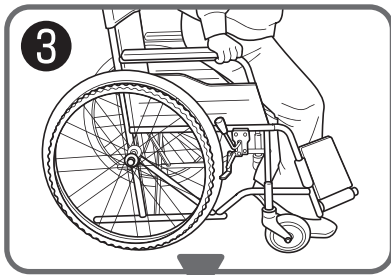
- 1 駐車用ブレーキを両側ロックします。



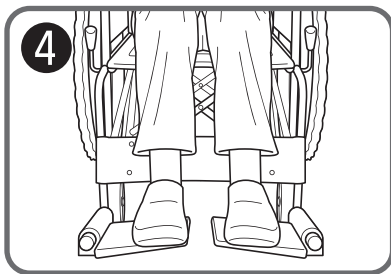
- 2 フットサポートを両側上げます。



- 3 両手でアームサポートを持ち、ゆっくり座り込みます。

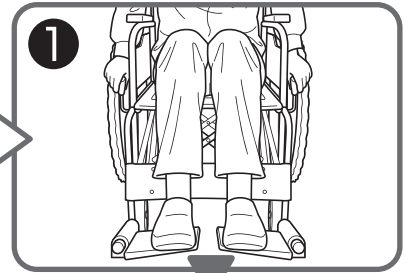


- 4 フットサポートに足を乗せます。

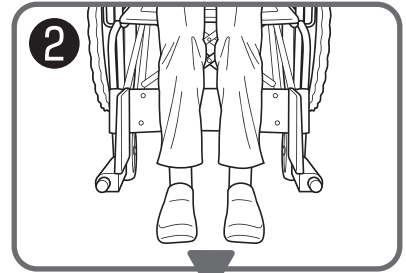


降りる時

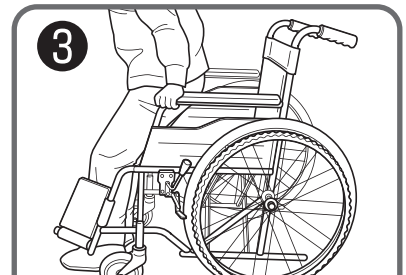
- 1 駐車用ブレーキを両側ロックします。



- 2 フットサポートを上げ、足を下ろします。



- 3 両手でアームサポートを持ち、ゆっくり立ち上がります。



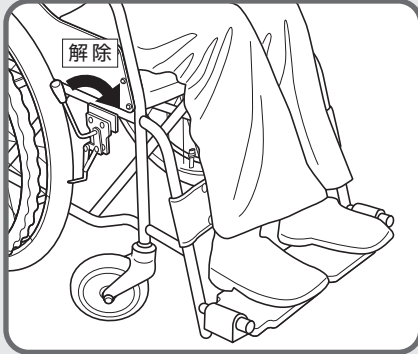
警告

- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。)

してはいけない

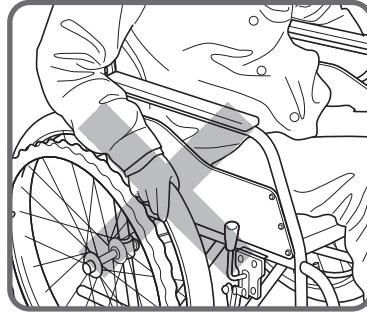
動かし方

駐車用ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。

ハンドリム



注意

●タイヤを持って車いすを操作しないでください。
駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。

してはいけない



注意

●スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。

してはいけない

注意

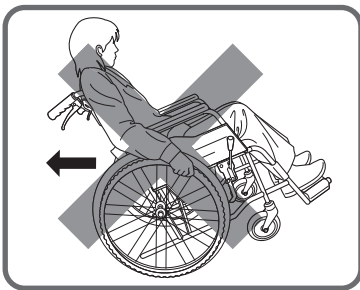
●走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。

してはいけない

注意

●車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。

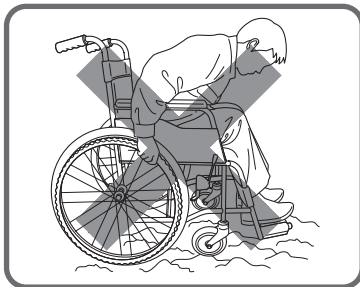
してはいけない



注意

●バックしながら急停車しないでください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



注意

●凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。)

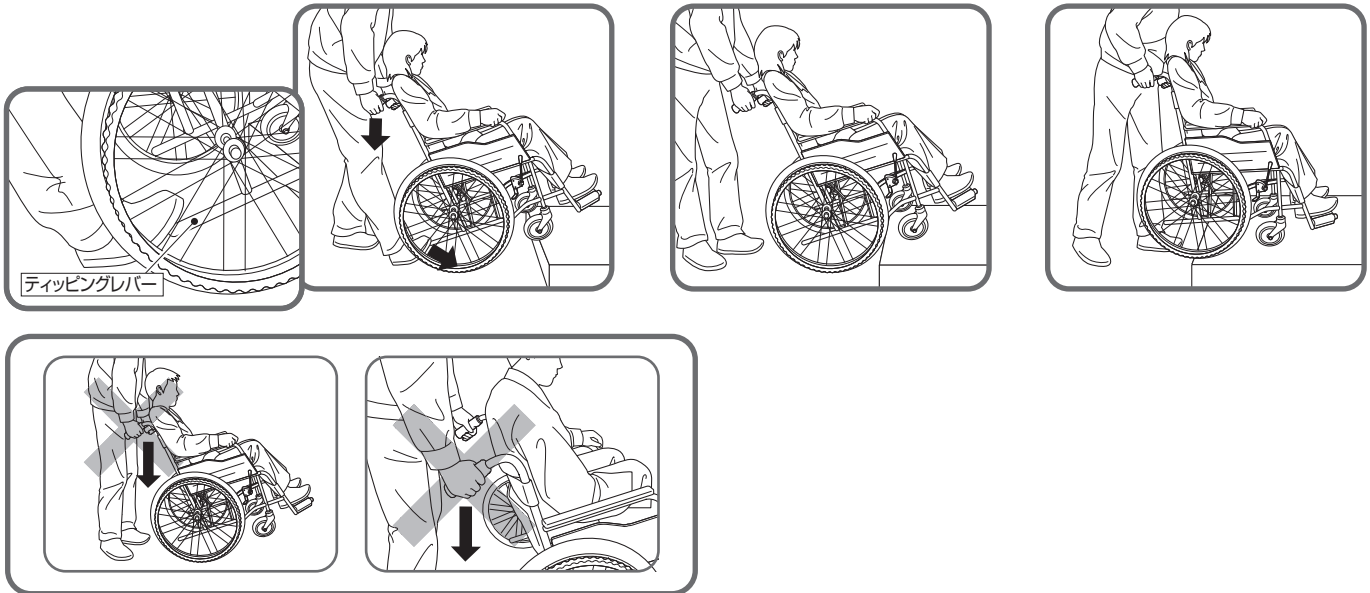
してはいけない

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げ、段差に乗せてから乗り越えてください。



⚠️ 注意

- バックサポートパイプやグリップのみで、キャストを上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

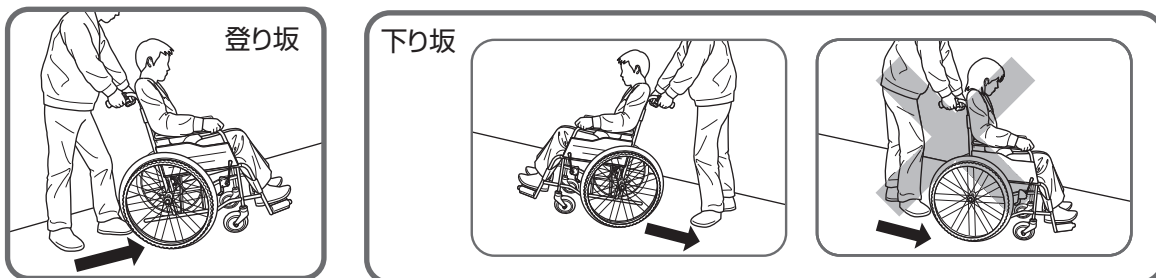
してはいけない

⚠️ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

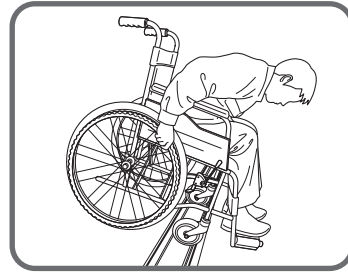
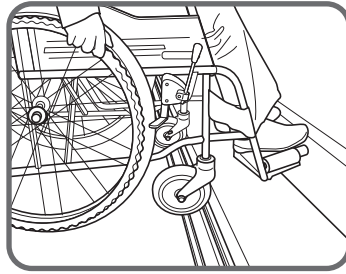
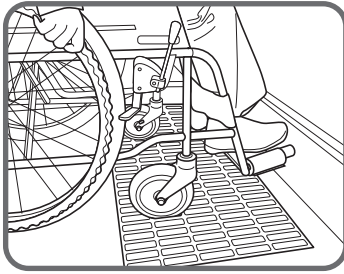
坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。



⚠️ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方はくんだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。
(車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。)

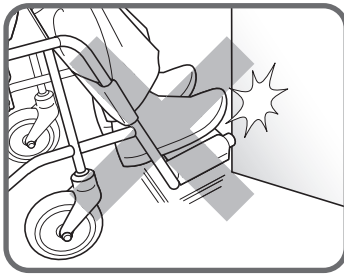
していただく

注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

注意

- フットサポートに、使用者の足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合



ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

注意

- 必ず固定されている場所を持ってください。
ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。

していただく

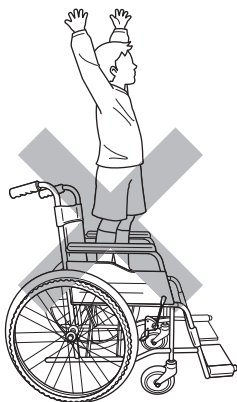
注意

- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。

していただく

重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。

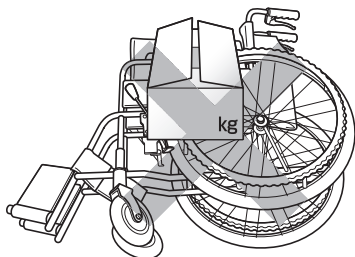
その他の注意事項



警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

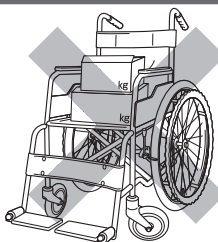
してはいけない



注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。)

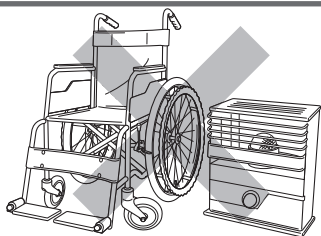
してはいけない



注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

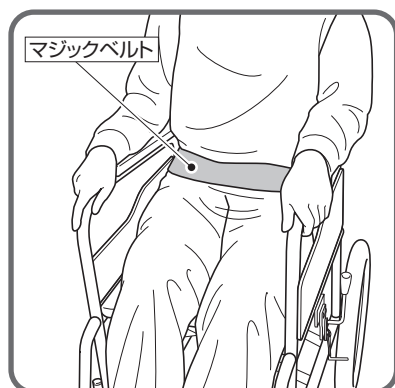
してはいけない

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、またはパラマウントベッドまでご相談ください。)

マジックベルト

- 使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

- マジックベルト装着機種は、必ずマジックベルトを締めてください。
(衝撃などで転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

- マジックベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

その他にも

- 延長ブレーキレバーなど、ご用意しております。
詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない <KK-T610LBのみ>	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください(P.14)
空気を入れてもすぐに抜ける <KK-T610LBのみ>	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください(P.14)
	・スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください(P.14)
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか<KK-T610LBのみ>	空気を入れてください(P.14)
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャストが片べりしていませんか	販売店またはパラテクノコールセンター(P.24参照)までお問い合わせください。
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払げて、バックサポートを起こしていませんか	車いすを折りたたんで行ってください。(P.6)
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	販売店またはパラテクノコールセンター(P.24参照)までお問い合わせください。
駐車用ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか<KK-T610LBのみ>	空気を入れてください(P.14)
	・タイヤは摩耗していませんか	販売店またはパラテクノコールセンター(P.24参照)までお問い合わせください。
リクライニング&ティルティング操作ができない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

■異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

車いすのお手入れの方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。
揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。
変色・劣化の原因となります。
ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤは最適空気圧を保ってください。（P.14）<KK-T610LBのみ>
空気圧が低いときは、補充してください。
- タイヤにはひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。



- オゾン(O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど)。

- 車いすに異常がある場合は、販売店またはパラテクノコールセンター（P.24 参照）までお問い合わせください。
その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・エア漏れ
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪・キャストの変形
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ
- 炎天下なところ

<ガススプリングのご使用方法について>

ガススプリングを使用した車椅子を正しく、安全にご使用していただくために、下記をよくお読みください。



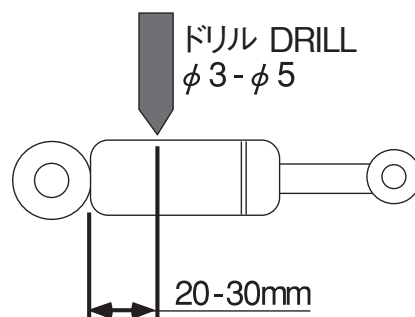
■ご使用上の注意



注意

高圧ガスが封入されています

- 分離したり火に入れないでください
- 廃却のときは、チューブの下部に穴をあけ、ガスを抜いてください
- このとき、オイルや切粉が飛散しますので、保護メガネを着用ください



■飛行機等への搭載

ガススプリングを使用した車椅子は、飛行機等に搭載される際に「非該当証明書」の提出を求められる場合があります。非該当証明書が必要な場合には、(株)松永製作所までお問い合わせください。

(株)松永製作所(代表)

TEL:0584-35-1180 (平日 08:30 ~ 17:30)

<https://www.matsunaga-w.co.jp/>

アフターサービスについて

1. 保証書

保証書は、この取扱説明書の裏表紙についておりますので、必ず「販売店・お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

販売店名・お買い上げ日の記入がない場合は、品番・販売店・お買い上げ日が確認できるように、製品をお買い上げの領収書などを保証書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼されるとき

取扱説明書の「もし、こんなトラブルが発生したときは」（21ページ参照）に従って調べてください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または弊社製品の修理受付窓口であるパラテクノコールセンター（下記参照）までご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベルの番号（ラベルの貼付位置は1ページ参照）
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 施設名、お名前、ご住所および電話番号

■消耗部品について

タイヤ・シート・ブレーキ・制動用ブレーキ用ワイヤー・ブレーキゴム・ガススプリングなどは消耗部品です。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているとき

修理により使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。

3. 部品の最低保有年数は

弊社ではこの車いすの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間を製造打ち切り後8年としております。

4. アフターサービスについてご不明な場合

お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

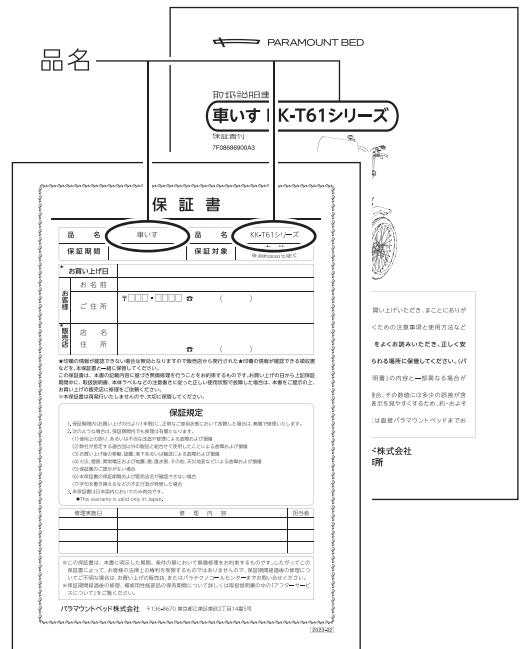
パラテクノコールセンター ☎ 0120-54-8639

受付時間：平日8:00～18:00／土・日・祝日9:00～17:00（年始は休業いたします）

【パラテクノ株式会社について】弊社製品の修理や保守点検などの各種サービスを実施する会社です。

パラマウントベッド株式会社

本社	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎(03)3648-1111(大代)
東京支店	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎(03)3648-1171(代)
札幌支店	〒060-0062	札幌市中央区南2条西13丁目318番地11	☎(011)271-1181(代)
仙台支店	〒984-0015	仙台市若林区卸町2丁目3番地の3	☎(022)239-5211(代)
さいたま支店	〒336-0967	さいたま市緑区美園3丁目23番1	☎(048)878-0100(代)
横浜支店	〒194-0004	東京都町田市鶴間5丁目3番33号	☎(042)795-8800(代)
名古屋支店	〒461-0001	名古屋市東区泉1丁目20番17号	☎(052)963-0600(代)
大阪支店	〒550-0001	大阪市西区土佐堀2丁目3番33号	☎(06)6443-8791(代)
高松営業所	〒761-8031	高松市郷東町223番1	☎(087)881-8900(代)
広島支店	〒733-0011	広島市西区横川町3丁目8番5号	☎(082)293-1311(代)
福岡支店	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号	☎(092)461-1131(代)



保証書

品名	車いす	品名	KK-T61シリーズ
保証期間	1年間	保証対象	本体 ※消耗部品を除く

★ お買い上げ日		
お客様	お名前	
	ご住所	〒□□□ - □□□□ ☎ ()
★ 販売店	店名	
	住所	☎ ()

★印欄の情報が確認できない場合は無効となりますので販売店から発行された★印欄の情報が確認できる領収書などを、本保証書と一緒に保管してください。

この保証書は、本書の記載内容に基づき無償修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルなどの注意書きに従った正しい使用状態で故障した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

※本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

保証規定

- 保証期間内(お買い上げの日より1年間)に、正常なご使用状態において故障した場合は、無償で修理いたします。
- 次のような場合は、保証期間内でも修理は有償となります。
 - 使用上の誤り、あるいは不当な改造や修理による故障および損傷
 - 弊社が指定する適合品以外の製品と組合せて使用したことによる故障および損傷
 - お買い上げ後の移動、設置、落下あるいは輸送による故障および損傷
 - 火災、煙害、異常電圧および地震、雷、風水害、その他、天災地変などによる故障および損傷
 - 保証書のご提示がない場合
 - 本保証書の保証期間および販売店名が確認できない場合
 - 字句を書き換えるなどの不正行為が発覚した場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - This warranty is valid only in Japan.

修理実施日	修理内容	担当者

※この保証書は、本書に明示した期間、条件の基において無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

パラマウントベッド株式会社 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号